

災害口腔保健管理学実習（槻木恵一）

Training of Disaster Oral Health Management (Keiichi Tsukinoki)

キーワード

- ① 災害医療歯科学
- ② 災害保健
- ③ フェーズ2
- ④ 口腔ケア
- ⑤ 地域連携

授業概要

災害時における対応は、各フェーズごとに対応内容が異なり、さらに実践力が必要である。本実習ではフェーズ2以降に必要な事項として口腔保健管理的な実践力を身につけると同時に課題を抽出し、課題解決に向けた方法論として、様々な災害時の口腔ケアの方法の実習と効果計測方法を学ぶ。また、災害の種類や場所において条件を変えた設定を行い応用力を身につける。これらの実習を通じて、災害口腔保健管理学における研究計画の立案実習を行う。

授業科目の学修目標

災害発生後、口腔の衛生状態を保つことは、高齢者の誤嚥性肺炎を防ぎ震災関連死を防ぐことが知られている。フェーズ2での口腔保健管理は、極めて重要であり、本実習では、災害を想定し、その状況に応じた歯科保健活動について実習を通じて身につけることを目標とする。

授業計画

- ① 災害口腔保健管理学的研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ② 災害関連訓練企画実施法計画実習 12コマ
災害想定の仕事や、それに基づく図上訓練を行い災害時の状況を実習を通じて教授する。
- ③ 災害時口腔ケア実習 12コマ
災害時に実践されている口腔ケアの方法論を実習を通じて教授する。
- ④ フィールドワーク 24コマ
被災地を訪問し、実際の災害時の口腔保健管理について聞き取り調査を行う。

実習担当教員 槻木恵一 木本一成

教科書および参考書

災害時の歯科保健医療対策 中久木康一編集

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

関連する事項については教科書を熟読すること。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し研究計画の立案ができる。
- ② 災害時の状況設定の想定ができる。
- ③ 災害時の口腔ケアの理論を理解し実践できる。
- ④ フィールドワークを通じて、災害時の状況を理解できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	40%	40%	0%	0%	20%	0%

評価の要点

- ・レポートは、授業計画の4回行い評価する。10%×4回=40%
- ・成果発表は、フィールドワークで行った調査を発表する。40%
- ・口腔ケア実習についてOSCE形式で評価する。態度10%、技能5%、知識5%

理想的な達成レベルの目安

総合成績が60%以上を求める。